令　和　7　年　度

主 要 施 策 の 成 果 に 関 す る 説 明 書

令和８年度滋賀県議会定例会
令和８年９月定例会議提出

［観 光 文 化 ス ポ ー ツ 部 門］

滋　賀　県　の　施　策　の　分　野

Ⅰ	人	自分らしい未来を描ける生き方
Ⅱ	経　済	未来を拓く　新たな価値を生み出す産業
Ⅲ	社　会	未来を支える　多様な社会基盤
Ⅳ	環　境	未来につなげる　豊かな自然の恵み

目　　次

		頁
Ⅰ	人	5
Ⅱ	経　　済	46
Ⅲ	社　　会	該当なし
Ⅳ	環　　境	該当なし

Ⅰ　人

自分らしい未来を描ける生き方

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明
1　子どもの文化芸術体験の充実 予　算　額　　52,519,000円 決　算　額　　52,499,956円	1　びわ湖ホール舞台芸術体験事業(「ホールの子」事業)

（単位：円）

区分	事業費	財源内訳			
		国支出金	地方債	その他	一般財源
予　算　額	50,481,000	－	－	883,000	49,598,000
決　算　額	50,461,956	－	－	1,125,675	49,336,281

・前年度決算額：43,168,682円　　・事業実施方法：委託、補助（補助率10/10）、直営

(1) 事業実績

県内の子どもたちが優れた舞台芸術に触れる機会を提供するため、びわ湖ホールに県内小学生等を招き、オーケストラとびわ湖ホール声楽アンサンブルによる音楽公演を平成23年度から実施している。

令和７年度は６日間で12公演を実施し、うち６公演を(公財)びわ湖芸術文化財団へ委託して実施した（残り６公演は指定管理事業）。また、県内各地からの参加を促すため、交通費の補助を行った。

日　程：令和７年５月28日～30日、６月３日～５日　各10:30～、14:00～（全12回公演）
場　所：滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール　大ホール
参加数：県内小学校等 203校　児童・生徒数 12,777人
補助数：県内小学校等 188校
補助率：実績額の全額を補助。

(2) 施策成果

過去最多となる203校、12,777人の参加があり、県内の小学生等に舞台芸術を直接体験できる機会を創出することができた。また、交通費の補助を行うことで、遠方の学校の負担を軽減した。

(3) 今後の課題

事業に参加した学校からは、直接舞台芸術に触れる貴重な経験として高い評価を得ており、参加校を増やせるよう引き続き周知等に取り組む必要がある。

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明

(4) 今後の課題への対応

ア　令和８年度における対応

令和９年度はびわ湖ホールの大規模改修に伴い「ホールの子」事業が開催できなくなるため、前後の年度において参加を希望する学校等が漏れなく参加できるよう、意向調査と参加校の調整を行い、令和８年度は公演を４公演（２日）追加して実施した。また、他の校外学習との組み合わせの提案や教育委員会発行の「教育しが」への掲載による保護者や教育関係者への周知等に取り組み、今年度は新規参加校として米原市から１校、長浜市から２校参加いただいた。

イ　次年度以降の対応

引き続き参加校を増やせるよう周知等に取り組むとともに、令和10年度において参加を希望する学校等が漏れなく参加できるよう、意向調査と参加校の調整を行う。

2　美ココロ・パートナーシップ事業

（単位：円）

区分	事業費	財源内訳			
		国支出金	地方債	その他	一般財源
予　算　額	2,038,000	－	－	－	2,038,000
決　算　額	2,038,000	－	－	－	2,038,000

・前年度決算額：2,038,000円　　・事業実施方法：補助（補助率10/10）

(1) 事業実績

多様な環境下にある子どもたち（別室登校・不登校児童生徒等）を対象に、若手芸術家を本事業の講師である「美ココロ・パートナー」として派遣し、様々な芸術に触れ、豊かな心を育む文化芸術体験プログラムを提供した。

学校数　19校　　児童・生徒数　延べ 379人

派遣した美ココロ・パートナー　陶芸家７人、打楽器奏者２人

(2) 施策成果

多様な環境下にある子どもたちが、文化芸術に触れることで、自己を育て感動や安らぎを感じることができる機会を提供することができた。不登校の児童・生徒が増えている状況や学校側の要望に応じて授業内容を工夫したことにより、学校の信頼を得て年間行事として位置づけられ、充実したプログラムを実施することができた。

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明
	(3) 今後の課題 様々な事情により学校が実施するプログラムに参加しにくい状況にある子どもたちを対象としている事業であり、対象となる子どもたちの課題に沿った内容で実施することができるようなプログラムを実施する必要がある。 (4) 今後の課題への対応 ア　令和８年度における対応 大学等と連携し、子どもの抱えている課題に沿ったプログラムを検討する。 イ　次年度以降の対応 芸術と教育との連携を深めるための教育関係者向け研修等の充実を図り、子ども達の抱えている課題に沿ったプログラムを実施していく。 （文化芸術振興課）
2　文化振興施策の総合的な推進 予　算　額　32,656,000円 決　算　額　31,988,041円	1　近江文化発見・発信事業

（単位：円）

区分	事業費	財源内訳			
		国支出金(1/2)	地方債	その他	一般財源
予　算　額	3,400,000	1,700,000	－	－	1,700,000
決　算　額	3,399,990	1,699,995	－	－	1,699,995

・前年度決算額：2,499,990円　　・事業実施方法：委託

(1) 事業実績

滋賀ゆかりの文学作品等を通じて、滋賀の歴史、風土、文化および自然等の魅力を発見し、発信することを目的に、滋賀の名所を散策し、短歌を作るワークショップを開催した。併せて、全国から滋賀の風景や思い出等をテーマにした短歌を募集し、100首を選定し、滋賀の魅力が詰まった「令和版近江百人一首」を制作した。

ア　短歌ワークショップ［滋賀を紡ぐ］

実施概要：令和７年８月31日（日）：長浜編（曳山博物館　伝承スタジオ）
参加者数：15人
令和７年９月13日（土）：大津編（石山寺　明王院）
参加者数：38人
令和７年９月23日（火・祝）：彦根編（彦根城博物館　講堂）
参加者数：29人

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明
	イ　令和版近江百人一首 応募者数：461名 応募数：1,022首 選考委員：滋賀文学会　／　特別審査員：宮島未奈氏　／　全体監修：高田ほのか氏 かるた大会：令和８年２月15日（日）近江勧学館にて開催 (2) 施策成果 短歌ワークショップの参加者82人には、滋賀の文化的・歴史的名所を訪ね、文芸活動を通して滋賀の魅力を感じてもらうことができた。また、令和版近江百人一首の制作にあたっては、全国から1,022首の応募があり、滋賀の魅力を言葉によって表現する楽しさに触れる機会を提供できた。 (3) 今後の課題 滋賀ならではの豊かで魅力ある文化を再発見し、県内外に発信する取組を引き続き展開する必要がある。 (4) 今後の課題への対応 ア　令和８年度における対応 司馬遼太郎作品の中から、豊臣秀吉・秀長が登場する『豊臣家の人々』を題材に、司馬遼太郎記念館館長による特別講演や作品の朗読会等を開催することで、作中で描かれる滋賀（近江）をきっかけに、今も息づく歴史・文化・風土・自然などの魅力を再認識する機会とする。 また、作品の舞台である北近江を巡る周遊プランを提案するとともに、北近江豊臣博覧会等との相互誘客を図ることで、県内外の方やこれまで文化芸術になじみの少なかった人に対して、参加意欲を促進し、滋賀の魅力を発信する。 イ　次年度以降の対応 文学作品等を通じた滋賀の魅力について、県内外に発信する取組を引き続き展開する。

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明

2　滋賀県芸術文化祭の開催

（単位：円）

区分	事業費	財源内訳			
		国支出金	地方債	その他	一般財源
予　算　額	29,256,000	－	－	1,326,000	27,930,000
決　算　額	28,588,051	－	－	1,326,850	27,261,201

・前年度決算額：28,376,135円　　・事業実施方法：委託

(1) 事業実績

主催事業

公募展（美術展覧会、写真展覧会、文学祭）の開催　　応募点数　：1,561点

公募展の応募点数	令３	令４	令５	令６	令７
（単位：点）	1,766	1,789	1,709	1,679	1,561

参加事業

開催期間中（令和７年８月～令和８年１月）に文化団体等が行う事業を参加事業として承認し、支援した。

参加事業数：　201事業

参加者数　：延べ 347,337人

(2) 施策成果

県民の日頃の芸術文化に関する創作活動の成果を発表する場を提供するとともに、多様な芸術文化に親しみ、鑑賞する場を提供することができた。

(3) 今後の課題

出品者の高齢化が進んでおり、若年層をはじめ幅広い年齢層の参加を促す必要がある。

(4) 今後の課題への対応

ア　令和８年度における対応

若年層をはじめ幅広い年齢層の県民が参加できるよう、新たにオンラインによる受付を実施するなど募集、実施方法、広報等を工夫していく。

イ　次年度以降の対応

引き続き、若年層を含め、幅広い年齢層の参加を促す。

（文化芸術振興課）

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明
3　美の魅力発信の推進 予　算　額　　15,705,000円 決　算　額　　15,406,450円	1　地域資源活用交流創出事業

（単位：円）

区分	事業費	財源内訳			
		国支出金(1/2)	地方債	その他	一般財源
予　算　額	11,187,000	1,423,000	－	－	9,764,000
決　算　額	10,959,620	1,423,400	－	－	9,536,220

・前年度決算額：－円　　・事業実施方法：委託、補助（補助率 定額）、直営

(1) 事業実績

地域にある美の資源を活用した取組を支援するとともに、団体同士の連携を図るため、成果発表会および交流会を開催した。また、美の魅力を一体的に発信するため、ＳＮＳ用ショート動画等を作成し、取組の発信を行った。

・採択団体（８団体）
・成果発表会および交流会　令和８年２月20日
・「『しが文化交流プロジェクト』サイト」での情報発信
・ＳＮＳ用ショート動画の作成およびＳＮＳでの情報発信

(2) 施策成果

県内の８団体に対し、地域に根差した文化・アート・風景等の多様な美の資源を結び付けた事業を展開する支援を行うとともに、特設サイトやＳＮＳ用ショート動画（合計再生数14.2万回）等による情報発信を通して、滋賀の美の魅力の発信の強化を図った。

(3) 今後の課題

多様な美やアートを通じた人と地域、社会のつながりや、新たな創作活動への刺激を生み出すとともに、取組を支える仕組みの維持・強化を支援し、さらなる地域活性化につなげていく必要がある。

(4) 今後の課題への対応

ア　令和８年度における対応

地域に根差した文化やアートを活用した取組をつなげ、分野や地域を超えた交流を創出するため、多くの方々の共感・参画を得ながら現場での活動に寄り添った支援の取組を進める。団体間の連携の支援や取組の発信を後押しする。

イ　次年度以降の対応

一体的な発信を通じて、コミュニティの活性化や美の資源を活用した取組のネットワークの構築を目指す。

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明

2　福祉の現場から生まれた造形の魅力発信事業

（単位：円）

区分	事業費	財源内訳			
		国支出金(1/2)	地方債	その他	一般財源
予　算　額	4,518,000	2,186,000	－	－	2,332,000
決　算　額	4,446,830	2,185,975	－	－	2,260,855

・前年度決算額：5,407,339円　　・事業実施方法：委託、直営

(1) 事業実績

県内各地で滋賀の福祉の現場から生まれた造形作品の展示を行った。令和７年度は、「わたＳＨＩＧＡ輝く国スポ・障スポ」の開閉会式会場の一角にも展示した。また、障害のある人による美術表現を軸に、多様な表現や鑑賞のあり方の可能性を考えていく連携ネットワーク組織の運営を行い、メールマガジンの発行による情報提供等を行った。

ア　宿泊施設等での作品展示　10箇所

イ　メールマガジンの発行

令和７年度会員数 737人　　発行回数　15回

(2) 施策成果

県内10箇所の宿泊旅館等のロビーや廊下、喫茶スペース、客室等に作品を展示することで、県内外問わず観光客等に対して、作品や作家、そして制作現場を紹介し、福祉の現場から生まれた造形の魅力を伝え、新たな造形との出会いを促進することができた。

(3) 今後の課題

作品自体の魅力を発信することに加えて、作品を生み出した福祉施設等の制作現場にもスポットライトを当て、より幅広くその魅力を発信していく方策を検討する必要がある。

(4) 今後の課題への対応

ア　令和８年度における対応

県内外の多くの方に、滋賀の福祉の歴史を背景に育まれた造形の魅力を知っていただくため、県内各地の宿泊施設等で作品の紹介を行うとともに、福祉施設に関するパネルの増設、のぼりの設置を行い、作品を生み出した福祉施設についても発信していく。

イ　次年度以降の対応

作品元となる福祉施設や展示施設を一部変更し、福祉の現場における先駆的な創造活動の歴史と蓄積がある滋賀ならではの造形作品を、より多くの人が訪れる地域の施設に展示することで、県内外に向けて、滋賀の美の魅力を発信していく。

（文化芸術振興課）

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明
4　滋賀県立文化産業交流会館の管理運営 予　算　額　　336,285,000円 決　算　額　　334,982,000円	1　滋賀県立文化産業交流会館の管理運営

（単位：円）

区分	事業費	財源内訳			
		国支出金（10/10）	地方債	その他	一般財源
予　算　額	336,285,000	18,755,000	－	35,797,000	281,733,000
決　算　額	334,982,000	17,452,000	－	1,685,432	315,844,568

・前年度決算額：328,453,000円　　・事業実施方法：委託（指定管理）

(1) 事業実績

主催事業

芝居小屋「長栄座」公演をはじめ、古典芸能を次世代へ継承するワークショップや学校アウトリーチ、室内楽コンサート等を開催。

23事業、44公演、入場者数　21,321人

(2) 施策成果

より多くの県民に文化芸術に触れる機会を提供するとともに、県北部における芸術文化活動の拠点として、びわ湖ホールとの連携のもと幅広い世代を対象とした事業を展開した。

特に、邦楽・邦舞の公演では、芝居小屋「長栄座」を制作し、湖北地域の魅力を伝える能楽を上演するなど、より親しみやすい公演を県民に提供した。さらに、県民の方々に直接出演いただく公演を実施するなどの人材養成事業にも取り組んだ。

主催事業入場者数	令４	令５	令６	令７
（単位：人）	20,042	29,669	23,444	21,321
貸館事業入場者数	令４	令５	令６	令７
（単位：人）	40,229	44,912	49,363	44,564
貸館件数	令４	令５	令６	令７
（単位：件）	699	657	660	827

(3) 今後の課題

広報や公演内容等について、びわ湖ホールとの連携をさらに進めながら、特色のある事業を実施していく必要がある。

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明
5　滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールの管理運営 予　算　額　　967,057,000円 決　算　額　　959,350,000円	(4) 今後の課題への対応 ア　令和８年度における対応 びわ湖ホール声楽アンサンブルによる公演をはじめ、休館中のびわ湖ホールとの連携を一層強化するとともに、施設や地域の特性を活かした古典芸能や邦楽を含む多様な事業を展開する。 イ　次年度以降の対応 より多くの県民に文化芸術に触れる機会を提供するとともに、県北部における文化芸術活動の拠点として賑わいを創出する。 （文化芸術振興課） 1　滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールの管理運営 （単位：円）

区分	事業費	財源内訳			
		国支出金（10/10）	地方債	その他	一般財源
予　算　額	967,057,000	48,031,000	－	1,968,000	917,058,000
決　算　額	959,350,000	40,324,000	－	2,493,298	916,532,702

・前年度決算額：953,552,000円　　・事業実施方法：委託（指定管理）

(1) 事業実績

主催事業

オペラ、オーケストラ、室内楽、声楽、ダンス、演劇、古典芸能等の公演を開催。

66事業、 204 公演、入場者数　74,402人

専属声楽アンサンブル運営

オペラへの招待、プロデュースオペラ、定期公演、「ホールの子」事業、ふれあい音楽教室等に出演。

広報営業

広報活動　公演チケット情報「Stage」（毎月発行、各13,000部）、舞台芸術情報誌「湖響」（年４回、各10,000部）の発行、ホームページの運用、公演プログラムの発行、新聞寄稿、雑誌、テレビ、ラジオ等

営業活動　チケットの企業・団体向け組織販売、青少年料金（24歳以下）の設定、民間助成金等の確保、友の会運営（一般会員 2,184人　サポート会員 442口　特別会員 183口）等

観客創造　劇場サポーター 118人、シアターメイツ 1,246人、リハーサルの公開等

ホール施設および駐車場の管理運営

各ホール貸館利用件数 179件　　入場者数　111,076人　　駐車場利用台数　66,906台

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明
	(2) 施策成果 自主制作による創造活動を基礎にしながら、県民をはじめ多くの方々に国際的水準の舞台芸術を最高の鑑賞条件で提供するとともに、誰もが舞台芸術の楽しみを味わい繰り返し来場いただけることを目指して、多彩なジャンルの優れた公演を開催するなど、県民文化の向上に貢献する事業を展開した。 主催事業入場者数　令４　令５　令６　令７ （単位：人）　57,394　56,098　62,237　74,402 貸館事業入場者数　令４　令５　令６　令７ （単位：人）　65,912　99,070　60,138　111,076 貸館件数　令４　令５　令６　令７ （単位：件）　157　167　137　179 (3) 今後の課題 引き続き、国際的水準の舞台芸術を県民に提供し、それを国内外に発信していく必要がある。また、休館期間中は県内外文化ホールや文化産業交流会館との連携のほか、声楽アンサンブルの活動強化、海外公演・海外劇場との連携など、びわ湖ホールファンを増やす取組の検討が求められる。 (4) 今後の課題への対応 ア　令和８年度における対応 「びわ湖の春　音楽祭2026～誘い～」において、びわ湖ホールを拠点に県全域が音楽で盛り上がるよう文化産業交流会館をはじめ、市町ホールで関連コンサートを開催した。さらに、７月には、びわ湖ホール休館に伴う取組として、びわ湖ホール声楽アンサンブルが長年にわたり再演してきたオペラ「森は生きている」を、新国立劇場（東京都）にて上演した。 引き続き、幅広い多彩なジャンルで優れた公演を実施するとともに、広報活動ならびに協賛支援の確保等に努めていく。 イ　次年度以降の対応 より多くの県民に文化芸術に触れる機会を提供するとともに、休館期間中は県内外文化ホールとの協働等により魅力あふれる事業展開に取り組む。 （文化芸術振興課）

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明
6　美術館における事業の推進 予　算　額　　143,625,000円 決　算　額　　137,306,810円	1　美術館展覧会開催事業

（単位：円）

区分	事業費	財源内訳			
		国支出金	地方債	その他	一般財源
予　算　額	106,907,000	－	－	38,609,000	68,298,000
決　算　額	105,240,724	－	－	40,646,479	64,594,245

・前年度決算額：86,242,403円　　・事業実施方法：委託、直営

(1) 事業実績

当館のコレクションを活かした展示、絵本作家の巡回展、「わたＳＨＩＧＡ輝く国スポ・障スポ」が開催されることにあわせて、親しみやすい運動のひとつ「散歩」をテーマにジャンル横断的に作品を集めて構成する展覧会、滋賀県在住の若手作家である笹岡由梨子による日本の公立美術館では初めてとなる個展を企業版ふるさと納税による寄付を活用して開催するなど、美術館のコレクションや滋賀ゆかりの作家の作品を軸に４本の企画展を開催したほか、コレクションを生かした常設展を開催した。

・常設展示　　14回　企画展示　　４回
・観覧者数　　70,724人（目標値：98,000人、達成率：72.2％）
・県美メンバーズ　　855人（令和６年度末：663人）
・来館者満足度　　92.4％（目標値：90％、達成率：100％）

(2) 施策成果

滋賀県にゆかりのある作家や当館のコレクションを中心に多様なジャンルでの企画展およびテーマ性のある常設展を開催し、令和６年度と比較して観覧者は増加した。中でも、夏休み期間に開催した「ザ・キャビンカンパニー大絵本美術展〈童堂賛歌〉」は、人気絵本作家であるザ・キャビンカンパニーの絵本原画や立体作品、映像作品などを紹介し、多くの方々、特に、中学生以下の子どもと一緒の来館者が多く、美術館内がにぎわった。

(3) 今後の課題

令和３年度のリニューアル時に設定した観覧者数の目標は達成できておらず、さらなる観覧者の増を図るため、県にゆかりのある作家や他の美術館等と連携しながら、大人も子ども楽しめる魅力ある展覧会を開催するとともに、情報発信等も充実させる必要がある。

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明

(4) 今後の課題への対応

ア　令和８年度における対応

今後の美術館が子どもと一緒に楽しめる展示を実現していくためのモデルとなる「ためして、みる展」をはじめ、「コレクター福富太郎の眼」、「丸木スマ展」、「佐川晃司展」の４回の企画展を開催するとともに、夏祭りの開催など美術館を身近に感じていただく取組を通じて、県美メンバーズやサポーターの増加につなげていく。

イ　次年度以降の対応

デスティネーションキャンペーンの機会やびわこ文化公園内の立地特性を生かし、魅力的な展覧会を企画・開催するとともに、積極的な情報発信を展開する。また、美術館の活動を継続・発展させることができるように県美メンバーズおよびサポーターの増加に引き続き努めていく。

2　美術館魅力向上事業

（単位：円）

区分	事業費	財源内訳			
		国支出金(1/2)	地方債	その他	一般財源
予　算　額	36,718,000	5,780,000	－	17,000,000	13,938,000
決　算　額	32,066,086	2,493,500	－	16,363,200	13,209,386

・前年度決算額：14,366,418円　　・事業実施方法：委託、直営

(1) 事業実績

美術館の魅力向上を目指して、「滋賀県立美術館整備基本計画」（美術館の施設整備に関する具体的な計画）の策定、文化庁補助金を活用したキッズミュージアムおよびナイトミュージアム事業「みんなでつくる！みんなで楽しむ！美術館の夏祭り！」の実施、美術館の未来の姿を考えるワークショップ「教えて！もっといきたい美術館」の開催、北部地域での展覧会開催、野外彫刻作品設置検討および公園内看板の設置などを行った。

・美術館の夏祭り！　総来場者3,276人（令和６年度：2,695人）
・ビジネスパーソン向け夜の鑑賞プログラム（ナイトミュージアム）　参加者　32人
・教えて！もっといきたい美術館　参加者　27人
・ASK01 キュンチョメ 100万年の子守唄　総来場者1,582人（イベント参加：134人）

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明
	(2) 施策成果 「滋賀県立美術館魅力向上ビジョン」に掲げた、子どもたちがアートに出会い親しむ機会の充実や誰もがウェルビーイングを高めることのできる環境づくりの実現に向けた取組の一環として、美術館への来館のハードルを下げ、年齢や障害の有無などにかかわらず、多くの方々が一緒に楽しめるイベント「みんなでつくる！みんなで楽しむ！美術館の夏祭り！」を開催した。地域の企業や団体、施設、個人の方々と一緒に夏祭りをつくりあげ、前年度を上回る来場者を迎えることができた。また滋賀県内在住・在学の小中高生とともに「もっと行きたい美術館」について考えるワークショップを開催した。加えて、「滋賀県立美術館整備基本計画」の策定に向けた支援業務では、専門的な見地からも詳細の検討を進め、2026年（令和８年）３月に同基本計画策定することができた。さらに、美術館から距離がある高島市において「ASK01 キュンチョメ 100万年の子守唄」を実施し、北部地域の自然や歴史、文化の魅力の再認識や発信、県内外からの誘客、関係人口の創出につながった。 (3) 今後の課題 令和８年３月に策定した「滋賀県立美術館整備基本計画」および令和６年３月に策定した「美術館魅力向上ビジョン」に基づき、美術館の新たな姿の実現を目指して、美術館の魅力・機能の向上に向けた取組と施設整備を一体的に行う必要がある。 (4) 今後の課題への対応 ア　令和８年度における対応 (ｱ) 整備の設計者の選定を通じて県内外からの関心を拡げるとともに、国内随一のキッズアートセンターの実現をめざし外部機関との検討を開始するなど、美術館整備を着実に推進する。 (ｲ) 公園や周辺施設との連携、アクセスおよび利便性の向上の検討など、他部局と連携して、エリアとしての魅力向上を目指す。 (ｳ) 北の近江地域での展示や社会的処方に資する取組などを通じて、広く県民がアートに親しめる機会を拡大する。 イ　次年度以降の対応 美術館魅力向上ビジョンおよび美術館整備基本計画に基づき、美術館の整備と魅力・機能の向上に向けた取り組みを継続的に進めていく。 （文化芸術振興課）

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明
7　文化財の保存と継承 予　算　額　　756,841,000円 決　算　額　　670,286,930円 （翌年度繰越額　　85,885,000円）	1　指定文化財の保護

（単位：円）

区分	事業費	財源内訳			
		国支出金	地方債	その他	一般財源
予　算　額	123,876,000	－	－	109,243,000	14,633,000
決　算　額	118,541,955	－	－	104,396,955	14,145,000

・前年度決算額：1,181,906,691 円　　・事業実施方法：補助（補助率 国庫補助残額の 10～50%等）

(1) 事業実績
ア　県指定文化財の新指定　　６件（有形文化財　５件、天然記念物　１件）
イ　国指定文化財保存修理等補助　36件（うち前年度繰越　４件）
ウ　県指定文化財保存修理等補助　10件
エ　埋蔵文化財発掘調査等補助　　14市町

(2) 施策成果
県指定文化財の新指定や滋賀県文化財保存基金を活用して文化財の保存修理等に対して支援を行うことにより、次の世代へ引き継ぐべき国民的財産である文化財の保存を図ることができた。

(3) 今後の課題
本県には、国指定等文化財が1,472件、県指定文化財が539件あり、重要文化財の指定件数は全国第４位（令和７年度末時点）である。これら数多くの優れた文化財を次の世代に良好に引き継いでいくため、国、市町、所有者等と連携し、計画的な保存・修理に努めていく必要がある。

(4) 今後の課題への対応
ア　令和８年度における対応
(ｱ) 県指定文化財の新指定のための調査および審議会の開催
(ｲ) 国指定文化財保存修理等補助予定件数　34件（うち前年度繰越　１件）
(ｳ) 県指定文化財保存修理等補助予定件数　10件
(ｴ) 埋蔵文化財発掘調査等補助予定件数　　16市町
イ　次年度以降の対応
引き続き滋賀県文化財保存基金を活用して計画的に保存修理等のための支援を進める。

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明

2　史跡の保存整備等の実施

（単位：円）

区分	事業費	財源内訳			
		国支出金(4/5)	地方債	その他	一般財源
予　算　額	36,986,000	22,056,000	5,000,000	－	9,930,000
決　算　額	36,849,975	22,054,000	4,900,000	－	9,895,975

・前年度決算額：153,532,119 円　　・事業実施方法：直営、委託

(1) 事業実績

ア　史跡公有化　公有化実施史跡：近江大津宮錦織遺跡　296.00㎡

イ　県有史跡地の維持管理

(2) 施策成果

緊急性の高い土地の公有化や県有史跡地の維持管理等を行うことで、地域の歴史にとって重要な価値を持つ史跡を適切に保存することができた。

(3) 今後の課題

緊急性の高い土地の公有化を図り、地域の歴史にとって重要な価値を持つ史跡を適切に保存する必要がある。

(4) 今後の課題への対応

ア　令和８年度における対応

緊急性の高い史跡地の公有化（史跡近江大津宮錦織遺跡）を進めるとともに、継続して県有史跡地の適切な維持管理を行う。

イ　次年度以降の対応

所有者の要望等を考慮し計画的に史跡地の公有化を進める。

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明
	3　文化財保存修理受託事業の実施

（単位：円）

区分	事業費	財源内訳			
		国支出金	地方債	その他	一般財源
予　算　額	595,979,000	－	－	595,979,000	－
決　算　額	514,895,000	－	－	514,895,000	－

・前年度決算額：647,369,000円　　・事業実施方法：直営

(1) 事業実績

文化財保存修理受託事業費　受託箇所数　２箇所

(2) 施策成果

国指定文化財建造物について、所有者から委託を受けて保存修理工事を行うことで、破損の著しい建造物を計画的に修理することができた。また、保存修理現場では見学の機会を設けることで、文化財学習の場や子どもたちが地元の文化財に触れる機会を創出し、伝統的な専門技術の継承や職人の育成にも寄与することができた。

(3) 今後の課題

文化財建造物の価値を維持していくため、適切な周期で保存修理を行うとともに、計画的かつ継続的に保存修理を実施していくため、文化財建造物修理技術者の確保・育成を図る必要がある。

(4) 今後の課題への対応

ア　令和８年度における対応

所有者が希望する保存修理の規模により、受託できる件数に限りがあるため、外部機関との執行調整を行うことで保存修理を計画的に実施する。

また、技術者養成研修の受講や保存修理現場において経験を積むことで、若手技師の育成を図る。

国指定建造物保存修理事業の予定箇所数　３箇所

イ　次年度以降の対応

市町ヒアリングにより所有者の要望を確認・調整し、長期的な見通しのもと、保存修理を実施していく。

（文化財保護課）

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明
8　文化財の魅力の発信 予　算　額　　2,685,849,000円 決　算　額　　2,632,053,888円 （翌年度繰越額　　49,283,000円）	1　「近江の城」魅力発信事業

（単位：円）

区分	事業費	財源内訳			
		国支出金(1/2)	地方債	その他	一般財源
予　算　額	6,007,000	2,747,000	－	－	3,260,000
決　算　額	5,778,214	2,658,362	－	－	3,119,852

・前年度決算額：10,714,091 円　　・事業実施方法：直営

(1) 事業実績

近江の城の魅力を全国に向けて広く発信し、滋賀県への来訪者の拡大を図ることを目的に、首都圏等での情報発信事業と県内での探訪交流事業等を実施した。

ア　首都圏等での取組

(ｱ) 東京講座　　１回　　51人
(ｲ) 東京シンポジウム　　１回　　115人
(ｳ) お城ＥＸＰＯへの出展　　２日　23,017人
(ｴ) 大阪お城フェスへの出展　　２日　7,387人

イ　県内での取組

(ｱ) 県内文化財講座　　２回　　106人
(ｲ) スマホアプリによる周遊企画　１件　13,947人

(2) 施策成果

首都圏など県外での取組においては、シンポジウムや講座の実施および「お城ＥＸＰＯ」のような大規模なイベントへの参加により、より幅広く滋賀県の城郭の魅力を発信することができた。また、県内での取組においては、直営で実施した文化財講座とともに、スマホアプリを活用した「北の近江の城跡・古戦場への周遊イベント」を実施し、より多くの方に参加いただき、本県の文化財の魅力を発信することができた。

令和８年度（2026年度）の目標とする指標

「近江の城1300」関連事業数および総参加者数	令５	令６	令７	目標値
目標	18回／2,900人	19回／3,000人	20回／3,100人	21回／3,200人
実績	17回／3,559人	18回／3,306人	16回／4,124人	－

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明

(3) 今後の課題

本県は豊かな歴史に育まれた豊富な文化財を有しているが、その存在や価値がまだ十分に知られていないため、引き続き県内外において、より効果的な魅力発信を行っていく必要がある。

(4) 今後の課題への対応

ア　令和８年度における対応

ＮＨＫの大河ドラマ「豊臣兄弟！」や「安土城築城450年祭」で注目を浴びる近江の戦国時代・城跡を活用した各種イベントを首都圏や県北部地域で開催することにより、全国への一層の情報発信とともに、北部地域への誘客や交流人口増加を推進する。

イ　次年度以降の対応

県の豊富な文化財の存在や価値を十分に周知していくためには継続的な取組が必要であり、今後も県内外の様々な場面において文化財を活用し、観光部局とも連携を図りながら魅力発信を行う。

２　「彦根城」世界遺産登録推進事業

（単位：円）

区分	事業費	財源内訳			
		国支出金	地方債	その他	一般財源
予　算　額	14,091,000	－	－	－	14,091,000
決　算　額	14,091,000	－	－	－	14,091,000

・前年度決算額：16,000,000 円　　・事業実施方法：補助（補助率 定額）

(1) 事業実績

推薦書案を文化庁に提出し、国の文化審議会の結果公表（令和７年８月）以降、国・県・彦根市で連携し推薦書案の再構成作業を実施した。併せて、機運醸成のための取組を実施した。

ア　推薦書案の再構成作業を実施

イ　県内でのシンポジウムの開催　２回　462人

ウ　大阪・関西万博や「わたＳＨＩＧＡ輝く国スポ・障スポ」など県内外のイベントへのブース出展、東京でのイベントおよびテレビ・ラジオ番組の制作・放送を実施

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明
	(2) 施策成果 国の文化審議会の審議結果が公表され「説明の充実に向けて引き続き取組が必要である」とされたが、以降は、国・県・彦根市で密に協議を重ね、推薦書案の再構成作業を実施するなど、世界遺産登録に向けた取組を着実に進めることができた。併せて、県内外の大型イベントやメディアを活用した情報発信の強化により、機運醸成を図ることができた。 (3) 今後の課題 彦根城の世界遺産登録に向けては、イコモスの現地調査等、必要な取組を着実にクリアするとともに、早期の登録の実現に向け、国や彦根市と連携の上、取組を着実に進めていく必要がある。 (4) 今後の課題への対応 ア　令和８年度における対応 ５月に文化庁に推薦書案を提出した。国の文化審議会による国内推薦の答申後は、ユネスコに提出する推薦書本体の作成に注力するとともに、次年度に実施予定のイコモス現地調査の準備を行う。併せて、国内推薦の機会を捉えた機運醸成の取組を行う。 イ　次年度以降の対応 令和９年夏頃に実施予定のイコモス現地調査については、国や彦根市と連携し万全な対応を行うとともに、登録後を見据えた保存活用の取組を行う。

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明

3　「幻の安土城」復元プロジェクト事業

（単位：円）

区分	事業費	財源内訳			
		国支出金(1/2)	地方債	その他	一般財源
予　算　額	179,373,000	34,598,000	116,200,000	－	28,575,000
決　算　額	142,151,002	34,600,000	84,400,000	－	23,151,002

・前年度決算額：639,981,339 円　　・事業実施方法：委託、直営

(1) 事業実績

安土城の実像を明らかにし、見える化を図ることで安土城への注目を集めることを目的に「安土城の実像解明と保全」、「デジタル技術を活用した安土城の見える化」および「機運醸成」を３つの柱として事業を実施した。

ア　安土城の実像解明と保全

「特別史跡安土城跡整備基本計画」に基づく令和の調査・整備事業の実施

イ　デジタル技術を活用した安土城の見える化

デジタル技術を活用した「幻の安土城」見える化アプリの制作（令和６年度～令和７年度）

ウ　機運醸成

(ｱ) 歴史セミナーの実施　４回　612人

(ｲ) 発掘現場の一般公開　１日　480人

(2) 施策成果

全国的にも高い知名度を誇る戦国の城であるが、その実像については謎に包まれている部分が多いため、安土城の復元プロジェクトを行うことにより、安土城や滋賀の歴史等に対して多くの注目を集めることができた。

令和５年度に20年間かけて実施を予定する令和の調査・整備事業として、天主台周辺の発掘調査に着手し、令和７年度においても引き続き、天主台直下の本丸取付台において建物の概ねの規模等を確認した。また、安土城の見える化に向け、多様な情報を提供するデジタル技術を活用した「幻の安土城」見える化アプリが完成し、10月11日から運用を開始した。令和７年３月にリニューアルオープンした安土城考古博物館のシアター展示とあわせて、視覚的に安土城を理解しやすくなった。

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明

(3) 今後の課題

整備基本計画に基づき令和の調査・整備事業を着実に実施するとともに、安土城考古博物館のリニューアル後の展示や、「幻の安土城」見える化アプリの活用、また、歴史セミナーを実施することで、さらなる機運醸成に取り組む必要がある。

また、新しい調査成果を見える化のツールに反映し、情報を発信していく必要がある。なお、安土城考古博物館の展示改修については、展示基本計画に基づき、第２期展示改修工事の実施について検討していく必要がある。

(4) 今後の課題への対応

ア　令和８年度における対応

整備基本計画に基づき、引き続き調査整備を着実に実施するとともに、その成果について情報発信を行う。また、歴史セミナーや見える化アプリを使用した城内でのイベントを開催し、機運醸成に取り組む。

イ　次年度以降の対応

安土城考古博物館のデジタル映像を活用した新しい展示と「幻の安土城」見える化アプリを連携させた見学の方法を、広く一般向けに発信するなどして、より多くの方々に安土城について正しく知っていただけるよう取り組む。

また、安土城の魅力や価値を十分に周知していくためには継続的な取組が必要であり、今後も様々な場面で見える化のツールや調査成果を活用し、その魅力の発信を行う。

4　琵琶湖の水中遺跡魅力発掘・発信事業

（単位：円）

区分	事業費	財源内訳			
		国支出金	地方債	その他	一般財源
予　算　額	8,816,000	－	－	8,000,000	816,000
決　算　額	8,652,372	－	－	8,000,000	652,372

・前年度決算額：340,590 円　　・事業実施方法：委託

(1) 事業実績

「琵琶湖の水中遺跡保存活用基本構想」を策定するとともに、琵琶湖に眠る水中遺跡魅力発掘・発信事業による講演会・展示会を開催し、滋賀県ならではの水中遺跡の魅力や価値を発信した。

また、国のパイロット事業を受託し、長浜市の葛籠尾崎湖底遺跡の現地調査を実施した。

ア　講演会　　１回　　33名

イ　展示会　　14日　　337名

ウ　現地調査　10月７日～10月15日

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明
	(2) 施策成果 琵琶湖に眠る水中遺跡の調査・保存や水中遺跡や出土品の活用の推進に向け、有識者から重要な意見を聴取することができた。また、講演会や展示会の開催により、琵琶湖の水中遺跡の重要性や貴重性を多くの方に伝えることができた。 国のパイロット事業受託による現地調査では、湖底地形と土器等の遺物の散布状況の把握に成功し、葛籠尾崎湖底遺跡のような深水域に位置する遺跡に対しては、遠隔操作型無人潜水機による調査手法が有効であることを実証することができた。 (3) 今後の課題 水中遺跡の実態を解明するための調査方法や、魅力を発信するための公開活用、水中遺跡に関わる人材の育成などの具体的な方向性について検討する必要がある。 また、水中遺跡は普段は琵琶湖に沈んでいるため、他の遺跡と比べて県民の興味・関心が低いことから、引き続き滋賀県ならではの水中遺跡の価値と魅力を広く発信していく必要がある。 (4) 今後の課題への対応 ア　令和８年度における対応 令和７年度に策定した「琵琶湖の水中遺跡保存活用基本構想」をもとに、湖岸での分布調査を実施し、今後の水中遺跡調査のための情報収集を進めていく。また、米原市内で講演会や展示会を開催し、琵琶湖の水中遺跡の価値と魅力を発信する。 イ　次年度以降の対応 「琵琶湖の水中遺跡保存活用基本構想」に基づき、文化庁や県内市町、関係機関等と連携・協力しながら、水中遺跡の調査や、葛籠尾崎湖底遺跡の国登録記念物の登録に向けた取組、水中遺跡と出土文化財の公開活用、人材育成などに取り組む。

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明

5　安土城考古博物館の管理運営

（単位：円）

区分	事業費	財源内訳			
		国支出金(10/10)	地方債	その他	一般財源
予　算　額	159,368,000	7,854,000	12,300,000	7,593,000	131,621,000
決　算　額	144,549,825	5,947,000	－	6,059,187	132,543,638

・前年度決算額：144,382,796 円　　・事業実施方法：委託（指定管理）、直営

(1) 事業実績

ア　展示事業

常設展、特別展（２回）、企画展（２回）、特別陳列、ロビー展示、回廊展示、屋外展示

イ　入館者数　38,060人

ウ　普及啓発事業

講演・講座等（城郭探訪含む）	31回	1,336人
体験学習・ワークショップ	３回	122人
博学連携事業（生徒・引率者等）	27団体	771人

エ　設備改修等

中央監視装置監視用パソコンの更新を実施した。

(2) 施策成果

入館者の目標人数は５万人であったが実績は約3.8万人であった。大阪・関西万博および記録的な猛暑により入館者数が伸びづらい状況であったが、第１期展示改修工事により行ったシアターの設置および「安土城築城450年祭」や大河ドラマ「豊臣兄弟！」放送等の好機を捉えた展覧会の開催により、下半期から入館者数が伸びており、本県の歴史文化に対する理解を深める機会を提供することができた。

(3) 今後の課題

より多くの県民や県外の方にも安土城に親しんでもらえるよう、来館者を増やすための広報等に力を入れていく必要がある。また、展示基本計画に基づき、第２期展示改修工事の実施を検討する必要があることに加え、施設の老朽化に伴う設備改修を計画的に進める必要がある。

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明

(4) 今後の課題への対応

ア　令和８年度における対応

令和７年11月にキックオフした「安土城築城450年祭」関連事業や大河ドラマ「豊臣兄弟！」にあわせて、来館者増を図る。また、長期保全計画に基づき計画的に設備更新を進めていくとともに必要な設備改修等を行う。

イ　次年度以降の対応

引き続き必要な設備改修を行うとともに、令和９年度のデスティネーションキャンペーンの機会や、シガパークを構成する公園の１つである近江風土記の丘の中核施設の役割を活かし、「安土城・信長・戦国」の魅力をより一層発信できるよう、地域や観光部局等と連携した取組を検討する。

6　琵琶湖文化館の管理運営

（単位：円）

区分	事業費	財源内訳			
		国支出金	地方債	その他	一般財源
予　算　額	2,286,001,000	－	1,995,900,000	66,903,000	223,198,000
決　算　額	2,284,908,663	－	1,995,900,000	86,489,050	202,519,613

・前年度決算額：281,829,881 円　　・事業実施方法：委託

(1) 事業実績

ア　展示事業（休館中のため他の博物館等で開催）

琵琶湖文化館地域連携企画展の開催　２回

・滋賀県立安土城考古博物館　　5,623人

・滋賀県立美術館　　8,996人

イ　普及啓発事業

講座「滋賀の文化財講座　花湖さんの打出のコヅチ」７回　889人

ウ　新しい琵琶湖文化館の整備

令和９年12月の開館に向け、実施設計に基づき、建設工事を着実に推進した。また、開館後の文化観光拠点機能の充実や適切な施設維持管理体制の構築に向けた各種準備業務等について計画的に推進した。

(2) 施策成果

琵琶湖文化館は平成20年度から休館しているが、他館と連携した展覧会の開催や積極的な収蔵品の貸出、様々なジャンルの文化財をテーマとした講演会の開催などを実施し、多くの方に文化財の魅力に触れる機会を提供することができた。また、新しい琵琶湖文化館については、事業計画どおり着実に整備を推進することができた。

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明

(3) 今後の課題

新しい琵琶湖文化館が整備されるまでの間、適正な収蔵環境を整備するとともに、収蔵品の活用を継続して実施する必要がある。また、新しい琵琶湖文化館については整備を着実に進めるほか、県民をはじめ幅広い層の認知度を高め、開館後の展示・事業や運営体制について具体化を進める必要がある。

(4) 今後の課題への対応

ア　令和８年度における対応

引き続き他館と連携した展覧会の開催や積極的な収蔵品の貸出、様々な文化財をテーマとした講演会等を開催する。新しい琵琶湖文化館の整備においては、引き続きＰＦＩ事業者と連携し、整備を着実に進めるとともに、令和９年12月の開館に向けた準備や各種イベント等を通じた広報活動を強化し、機運醸成をさらに図っていく。

イ　次年度以降の対応

開館に向け、収蔵品の移設や開館記念展示の準備を本格化させるほか、展示・事業の企画や運営体制の構築を進めるとともに、新たにサポートセンターやビジターセンター機能を備えるための準備についても、ＰＦＩ事業者や市町、県内博物館、観光関連団体等と連携して取り組んでいく。さらに、県民等が新しい琵琶湖文化館に親しみや関心を持っていただけるよう、開館前から開館記念事業や各種イベント等を通じた情報発信を行う。

7　埋蔵文化財センターの管理運営

（単位：円）

区分	事業費	財源内訳			
		国支出金	地方債	その他	一般財源
予　算　額	32,193,000	－	－	2,250,000	29,943,000
決　算　額	31,922,812	－	－	2,347,544	29,575,268

・前年度決算額：32,954,669 円　　・事業実施方法：委託

(1) 事業実績

ア　埋蔵文化財に関する資料の収集、整理、保管および普及・啓発活動の実施

(ｱ) 出土遺物・記録資料のデータ整理や貸出等の対応

(ｲ) ロビー展示や大津京駅構内での展示を実施

(ｳ) 学校教育機関への出前事業等の実施　　20回　757人

イ　埋蔵文化財センターの機能強化に向けた検討

「滋賀県埋蔵文化財センター基本方針」を策定した。

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明
	(2) 施策成果 展示会や出前講座、体験学習などを通じて、幅広い年齢層の方に埋蔵文化財への理解を深めていただいた。また、「滋賀県埋蔵文化財センター基本方針」をとりまとめ、「滋賀県埋蔵文化財センター基本計画」の策定に向けた、必要な施設整備や機能について検討を進めることができた。 (3) 今後の課題 県内には多数の埋蔵文化財が存在するが、それらの多くが土中にあるため、講演会や展示等を開催し、発掘調査によって明らかになった遺構や出土遺物等について、広く県民に知っていただく必要がある。また、滋賀県の埋蔵文化財行政の拠点となる埋蔵文化財センターの機能強化について整理する必要がある。 (4) 今後の課題への対応 ア　令和８年度における対応 引き続き、講演会や展示、出前事業等を開催し、本県の埋蔵文化財について学ぶ機会を提供するとともに、滋賀県埋蔵文化財センターに必要となる施設整備や機能について、具体的に検討・整理を行い、「滋賀県埋蔵文化財センター基本計画（素案）」を策定する。 イ　次年度以降の対応 出土遺物や記録資料の適正な管理や公開活用を進め、広く県民の埋蔵文化財への関心を高めるとともに、理解を深めていただける機会の提供を継続する。また、令和８年度に策定予定の基本計画（素案）に基づき、施設整備や機能の充実等についてさらに議論を深め、基本計画の策定を進める。 （文化財保護課）

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明
9　スポーツの総合的な振興 予　算　額　　144,714,000円 決　算　額　　140,195,050円	1　スポーツの魅力発信

（単位：円）

区分	事業費	財源内訳			
		国支出金(1/2)	地方債	その他	一般財源
予　算　額	4,600,000	2,300,000	－	－	2,300,000
決　算　額	4,600,000	2,300,000	－	－	2,300,000

・前年度決算額：4,600,000円　　・事業実施方法：委託

(1) 事業実績

スポーツ情報発信サイト「しがスポーツナビ！」運営業務委託　アクセス件数 160,003件

(2) 施策成果

県内のスポーツに関する情報を総合的に発信するポータルサイト「しがスポーツナビ！」において、国スポ・障スポ特設ページを開設し、観戦者向けのガイドや開催競技を紹介するとともに、滋賀県ゆかりのアスリートへのインタビューやイベント情報等を掲載することで、県民のスポーツを「する」「みる」「支える」活動を支援するための情報発信を行った。

令和８年度（2026年度）の目標とする指標

成人（男女）の週１回以上のスポーツ実施率	令３（策定時）	令７	目標値	達成率
	52.0%	52.4%	66%	2.9%

(3) 今後の課題

スポーツ施設の環境整備や、利用促進、スポーツ参加機会の創出、スポーツイベントの実施、普及啓発等に努めることによりスポーツ実施率の向上に努める。「しがスポーツナビ！」については、一層魅力あるサイトにしていくため、ＳＮＳとＨＰの連携を強化し、より多くのスポーツ情報を発信していく必要がある。

(4) 今後の課題への対応

ア　令和８年度における対応

滋賀県ゆかりのアスリートの紹介やスポーツの魅力発信に関するコンテンツの制作を継続して実施するとともに、ＳＮＳ広告の出稿をすることで、より多くの県民に情報を届けられるよう情報発信の強化を図る。

イ　次年度以降の対応

県ゆかりのアスリート紹介や県内スポーツイベントの案内や紹介などの積極的な情報発信を行うとともに、プロスポーツチーム等との連携を図るなど 、引き続き「しがスポーツナビ！」の魅力向上に努める。

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明

2　プロスポーツを活用した県民のスポーツ推進

（単位：円）

区分	事業費	財源内訳			
		国支出金(1/2)	地方債	その他	一般財源
予　算　額	19,427,000	9,713,000	－	－	9,714,000
決　算　額	18,239,417	9,119,708	－	－	9,119,709

・前年度決算額：16,581,535円　　・事業実施方法：委託、補助（補助率1/2）、直営

(1) 事業実績

県内プロスポーツ６チーム（滋賀レイクス、東レアローズ、レイラック滋賀ＦＣ、日本精工ブレイブベアリーズ、東近江バイオレッツ、ブルースティックス滋賀）の試合会場において、横断幕等の掲示や電光掲示板による広告掲出、冠ゲームの開催により国スポ・障スポ大会等のスポーツ大会の周知と機運醸成を図るとともに、びわ湖マラソン等の大規模大会のＰＲ、コーチバンクシステムの広告を行った。また、小中学生を対象にプロスポーツ等の選手より直接教えていただく「しがトップアスリートフェス」を開催した。

試合観戦者数　約20万人

(2) 施策成果

プロスポーツ等の持つ集客力や発信力等を活用し、試合会場における県内で開催される国スポ・障スポ等の大規模スポーツ大会のＰＲを実施することで、大会の機運醸成を図ることができた。

(3) 今後の課題

県内のプロスポーツ等の試合会場でＰＲや啓発を実施するほか、プロスポーツを更に活用し、地域の活性化を図っていく必要がある。

(4) 今後の課題への対応

ア　令和８年度における対応

プロスポーツの集客力を活かし、ホームゲーム会場やＳＮＳ等において引き続きスポーツ関連事業のＰＲを行い、ワールドマスターズゲームズ2027関西等の大規模スポーツ大会の機運醸成等に取り組む。

イ　次年度以降の対応

引き続き、子どもたちを中心にプロスポーツに触れ合う機会をつくるとともに、各チームの発信力や集客力を活用して県民のスポーツ推進につながる取組を進める。

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明

3　パラスポーツの振興

（単位：円）

区分	事業費	財源内訳			
		国支出金(1/2×65%)	地方債	その他	一般財源
予　算　額	111,566,000	1,989,000	－	－	109,577,000
決　算　額	109,433,313	1,989,000	－	－	107,444,313

・前年度決算額：75,298,484円　　・事業実施方法：委託、補助（補助率10/10）、直営

(1) 事業実績

ア　滋賀県障害者スポーツ大会（県大会[選考会]、スポーツフェスタの部、スペシャルスポーツの広場）開催

県大会［選考会］：延べ４回開催、参加者数 613人

スポーツフェスタの部：延べ５回開催、参加者数 349人

スペシャルスポーツの広場：延べ12回開催、参加者数 905人

イ　全国障害者スポーツ大会選手派遣（滋賀県）

本大会　10月25日～10月27日　（派遣選手数：個人競技146人、団体競技142人）

成績　金87個、銀53個、銅34個　計174個

ウ　障害者スポーツ推進事業

パラスポーツ教室等開催　18団体　参加者数　延べ6,227人

(2) 施策成果

ア　スペシャルスポーツの広場、スポーツフェスタ、県大会[選考会]と競技のレベルに応じた大会を開催し、障害のある人のスポーツを「する」きっかけをつくるとともに、競技力向上などスポーツへの意欲の喚起につなげた。

イ　昨年度、本県で開催された「わたＳＨＩＧＡ輝く障スポ」において、全16競技への出場という目標を達成した上で、過去最多の174個のメダルを獲得することができた。

(3) 今後の課題

ア　「わたＳＨＩＧＡ輝く障スポ」でスポーツに関心を持った障害のある人が継続してスポーツを「する」ことができる環境を維持・拡大していくことに加え、障害のある人もない人も一緒にスポーツを「する」場や障害のある人がスポーツを「みる」「支える」機会を提供していく必要がある。

イ　滋賀県障害者スポーツ協会等スポーツ分野の団体をはじめ、福祉・教育分野の関係者や団体、市町、企業等の多様な主体がパラスポーツの普及啓発や振興に取り組むとともに、課題を共有し、相互に連携していくことができる場をつくっていく必要がある。

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明

(4) 今後の課題への対応

ア　令和８年度における対応

(ｱ) 障害のある人が身近な地域でスポーツを楽しむことができる場を拡充するとともに、障害のある人とない人が一緒に参加できる大会の開催、視覚障害者が現地でスポーツ観戦をできる取組や、特別支援学校の生徒等がびわ湖マラソン等においてボランティア活動をする機会等を提供していく。

(ｲ) スポーツを通じた共生社会を実現するため、多様な主体が集まり、パラスポーツの普及啓発や振興、障害のある人の「する」「みる」「支える」の推進に関する課題を共有し、連携した取組等を検討する場を設ける。

イ　次年度以降の対応

(ｱ) 障害のある人がスポーツを「する」だけでなく、「みる」「支える」でも楽しめ、生きがい・やりがいを実感できる取組を推進していく。

(ｲ) 多様な主体がパラスポーツの普及啓発や振興に取り組み、障害の有無に関わらず誰もが同じスポーツに関わり楽しむことができる機会を増やしていく。

4　運動部活動の地域連携・地域展開に向けた環境整備

（単位：円）

区分	事業費	財源内訳			
		国支出金(10/10)	地方債	その他	一般財源
予　算　額	5,692,000	3,619,000	－	－	2,073,000
決　算　額	4,739,320	3,378,558	－	－	1,360,762

・前年度決算額：1,772,151円　　・事業実施方法：委託、補助（補助率1/2）

(1) 事業実績

部活動の地域連携・地域展開の推進にあたり、以下の事業を実施した。

ア　地域指導者募集啓発事業委託（ＷＥＢ広告を用いた普及啓発）

イ　滋賀スポーツコーチ養成・人材活用構築事業委託（滋賀コーチバンクシステムの運用）

ウ　指導者資格取得補助事業等

エ　指導者養成教材開発業務委託（中学生年代のスポーツ指導者養成のための映像教材）

(2) 施策成果

ア　県内で地域指導者を募集していることを広く周知し、指導者の確保につなげた。（事業実施期間中の滋賀コーチバンクシステムへの新規登録者数124名）

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明

イ　滋賀コーチバンクシステム登録者数 347名
ウ　県内のスポーツ指導者の資格取得を促し、資質向上につなげた（合計36名）。
エ　県内大学と連携し、部活動指導員や地域クラブ指導者等を対象とした動画教材を作成した。中学生の実態や指導上の留意事項等を学ぶ機会を提供し、指導者の資質向上と安心・安全な活動環境の整備を推進した。

(3) 今後の課題

滋賀県では、「地域連携」を中心とした取組を進めるとともに、「地域展開」を見据えた対応を進めることを基本方針とする「滋賀県における中学校部活動改革および地域クラブ活動の推進計画」を令和８年３月に策定した。今後は、地域指導者の確保・育成や受け皿団体の整備に加え、これらの取組を持続的に推進するための財源確保、多様な地域の関係者の理解・参画を促す機運醸成が課題となっている。

(4) 今後の課題への対応

ア　令和８年度における対応

部活動の「地域連携」強化に向けて、地域指導者の確保に継続して取り組むとともに、将来的な地域展開を見据え、地域指導者が中心となって指導する地域型部活動の実証事業を実施する。

イ　次年度以降の対応

学校を含む地域全体で子どもたちの学びと体験を支えるという機運醸成を図って多様な主体の参画を促すとともに、改革の主体である市町を支えるため、市町の取組状況の把握および伴走支援・指導助言、広域連携の取組に対する支援を行っていく。

5　シンボルスポーツの創出・定着

（単位：円）

区分	事業費	財源内訳			
		国支出金(1/2)	地方債	その他	一般財源
予　算　額	3,429,000	1,714,000	－	－	1,715,000
決　算　額	3,183,000	1,591,500	－	－	1,591,500

・前年度決算額：5,443,000円　　・事業実施方法：補助（補助率1/2）

(1) 事業実績

「わたＳＨＩＧＡ輝く国スポ・障スポ」の開催競技など、地域に根差したスポーツをシンボルスポーツとして普及・振興するための取組に対して支援した。

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明
	(2) 施策成果 相撲や柔道で「わたＳＨＩＧＡ輝く国スポ・障スポ」の記念大会を実施した長浜市や、プロ野球選手を招いた野球教室を実施した東近江市など５団体を支援し、シンボルスポーツの普及・振興につなげることができた。 (3) 今後の課題 シンボルスポーツとして一つでも多くの競技が根付き、「自分たちの町のスポーツ」という意識が生まれ、住民の一体感と地域への愛着が醸成されるとともに、地域の活性化につながるよう、引き続き支援を行う必要がある。 (4) 今後の課題への対応 ア　令和８年度における対応 国スポ・障スポ大会の開催競技等の全国大会や強豪チームの合宿誘致、トップアスリートを招いたイベント等、集客力のある大々的なイベントに加え、競技を普及させるために地道に行う体験会や教室等、草の根的な活動に対しても補助対象を拡大し支援する。 イ　次年度以降の対応 事業の継続により、国スポ・障スポ開催競技等をレガシーとして継承し、シンボルスポーツとして普及・定着することで、住民の一体感や地域の活性化につなげる。 （スポーツ課）
10　スポーツ大会の開催・支援 予　算　額　　64,404,000円 決　算　額　　64,404,000円	1　びわ湖マラソン大会の開催 （単位：円） 区分 / 事業費 / 財源内訳（国支出金 / 地方債 / その他 / 一般財源） 予　算　額　50,000,000　－　－　－　50,000,000 決　算　額　50,000,000　－　－　－　50,000,000 ・前年度決算額：50,000,000円　　・事業実施方法：補助（補助率 定額） (1) 事業実績 「びわ湖毎日マラソン」および「びわ湖レイクサイドマラソン」の伝統を受け継ぐ、新たな市民マラソン大会として、開催市および競技団体、関係団体等と連携し、びわ湖マラソン2026を開催した。 開催日　３月８日　参加者数　7,477人（エントリー数 8,485人）

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明
	(2) 施策成果 第４回大会となるびわ湖マラソン2026では、47の全ての都道府県からランナーとして参加いただくとともに、海外からのランナーも増えてきており、より広い層に認知される大会となってきた。 また、多くの企業から協賛をいただくとともに、学校や各種団体等から約2,500名のボランティア等の協力を得られたことで、安全に円滑な大会運営を行うことができた。 加えて、給食やフィニッシュ会場の飲食ブースを中心に滋賀県ならではのおもてなしを提供することで、大会の魅力を高め、地域の活性化につながった。 (3) 今後の課題 次回は第５回となる節目の大会であり、記念大会としての特別な取組や、より大勢の方に知っていただくための広報をしていく必要がある。 また、引き続き交通規制等による地域への影響を鑑み、自治会や沿道施設に丁寧な周知を行い、地元に愛される大会を目指していく必要がある。 加えて、「走る(する)」ランナーに対する大会の満足度を高める取組はもちろん、「みる」応援する人や「支える」ボランティア等に対しても次回以降もびわ湖マラソンに関わっていこうと思えるような取組を行っていく必要がある。 (4) 今後の課題への対応 ア　令和８年度における対応 第５回の記念大会にあわせて、出走定員を7,000人から8,000人へ拡大するほか、特別な企画として、初回大会から５回連続「完走者」を対象にした特別記念品のプレゼントやびわ湖マラソンの名物エイドである『近江牛ローストビーフ』の増量等を実施する。 地元の自治会等に対しては、大会当日の交通規制の周知とあわせてフィニッシュ会場で実施するイベントを広報することで、自宅周辺での応援に加え、フィニッシュ会場へ足を運んでもらえるよう取り組んでいく。 早いタイムを狙うランナーに対しては完走後、給食を楽しむスペースを設けるほか、応援する人への応援グッズの配布やボランティアに対する雨天対策の強化など、マラソンに関わる人がより楽しめる環境を整えていく。 イ　次年度以降の対応 (ｱ) より大勢の方が参加いただけるよう、安全対策の強化を図るとともに、地元の理解とより多くの企業やボランティアの協力を得られる働きかけを行っていく。 (ｲ) 滋賀の魅力の発信と地域の活性化が図ることができるよう、滋賀県ならではのおもてなしの提供に磨きをかけるとともに、観光につながる取組を促進していく。

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明
	2　ワールドマスターズゲームズ2027関西の開催

（単位：円）

区分	事業費	財源内訳			
		国支出金	地方債	その他	一般財源
予　算　額	7,904,000	－	－	－	7,904,000
決　算　額	7,904,000	－	－	－	7,904,000

・前年度決算額：2,291,000円　　・事業実施方法：補助（補助率 定額）

(1) 事業実績

ワールドマスターズゲームズ2025台湾大会への視察を行うなど各地元競技団体や開催市と連携し、開催に向けた準備を進めるとともに、関西マスターズゲームズ冠称大会等における参加者確保に向けた広報および関西スポーツの日等にWMG開催に関する啓発を行い、2027年の大会開催に向けた機運の醸成を図った。

(2) 施策成果

令和８年３月２日から一般エントリーを開始し、エントリー開始直後から多くの反響をいただき、早期に定員に達した競技もある。

(3) 今後の課題

本県では、６競技の開催を予定しており、まだ定員に余裕のある競技もあるため、引き続き参加者確保が必要となる。また、令和８年度においては、参加者確保に加え、広報、機運醸成、ボランティア確保、競技運営、観光周遊、輸送交通等の企画運営等の準備が必要となる。

(4) 今後の課題への対応

ア　令和８年度における対応

(ｱ) 参加者確保については、国内の類似大会等でＰＲを実施するほか、大会組織委員会や中央競技団体と連携して国内外の競技団体等への情報発信など広報活動を行っていく。

(ｲ) 機運醸成については、イベントの開催や開催市主要駅構内・開催市街の装飾等シティドレッシングを行い、地域を盛り上げていく。開催市と協力して主要駅前等でのＰＲ活動を行うほか、ＳＮＳを活用した情報発信、広報誌や新聞に広告を掲載するなどWMG開催に関する県民等への周知を図っていく。

(ｳ) ボランティア確保については、「わたＳＨＩＧＡ輝く国スポ・障スポ」に参加いただいたボランティアへの協力依頼や「しがスポーツナビ！」による情報発信、スポーツボランティア募集サイトの活用など、県民等への周知を図るとともに、個別に学校・企業等へ訪問を行うなど、開催市と連携しながら積極的に協力を求めていく。

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明

(ｴ) 競技運営については、その主体となる開催市・地元競技団体に対する支援を継続して行うことで、中央競技団体との調整結果や大会組織委員会が示す要綱等に基づき、安全かつ円滑な競技運営が行えるよう準備を進める。
(ｵ) 観光周遊については、滋賀の魅力ある文化財や食文化、観光ルート等の観光情報について、大会組織委員会や県、関係機関のホームページ等により情報発信を行うことで、国内外からの競技参加者の観光周遊を促進する。
(ｶ) 輸送交通については、最寄り駅まで一定以上の距離がある競技会場へシャトルバスを運行できるよう運行計画を策定するなど、参加者等の安全かつ円滑な輸送の実施に向けた準備を進める。

イ　次年度以降の対応

(ｱ) 開催市主要駅構内・開催市街の装飾等シティドレッシングを行い、地域を盛り上げるとともに、参加者等をおもてなしする。
(ｲ) 国内外から来県される参加者を迎え、安全かつ円滑な競技運営を行う。
(ｳ) 本県の魅力を体験・体感いただける交流イベントを開催するとともに、観光情報等を発信する地域拠点を米原駅に設置し、観光周遊を促進する。
(ｴ) 輸送交通については、運行計画・運行マニュアルに基づき、安全かつ円滑に参加者等の輸送を行う。

3　スポーツボランティア支援事業

（単位：円）

区分	事業費	財源内訳			
		国支出金	地方債	その他	一般財源
予　算　額	6,500,000	－	－	－	6,500,000
決　算　額	6,500,000	－	－	－	6,500,000

・前年度決算額：8,000,000円　　・事業実施方法：補助（補助率10/10）

(1) 事業実績

既存のボランティアイベントに加え、新たなイベントにおいてボランティアへの参加の機会を提供するとともに、ゲームコンダクターＳＨＩＧＡのシステムを活用し、スポーツボランティアの募集を実施した。

(2) 施策成果

本県におけるスポーツボランティア文化の定着を図るため、ボランティアに関する研修の実施や多様な情報発信、魅力的な活動機会の提供といった参加意欲向上につながる方策を展開した。

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明
	令和８年度（2026年度）の目標とする指標 スポーツボランティア参加者数　　令７　13,580人　　目標値　3,800人以上　　達成率　100％ (3) 今後の課題 「わたＳＨＩＧＡ輝く国スポ・障スポ」に多くのボランティア参加があったため、令和７年度のスポーツボランティア参加者数は、目標値を大きく上回ったが、大規模イベントでのボランティア参加を通じてスポーツボランティアに興味を持った方が、その後も継続的にボランティア活動に関わり続けられるよう魅力ある活動機会の提供が必要である。 (4) 今後の課題への対応 ア　令和８年度における対応 スポーツボランティア情報プラットフォームについて、滋賀のスポーツ総合サイトである「しがスポーツナビ！」内に新設する募集ページにおいて運用することとし、より広くスポーツに関心のある方にスポーツボランティアの情報を届けることができる枠組みとする。 イ　次年度以降の対応 各種大会の開催にあたり「する」スポーツだけではなく、「支える」スポーツの観点から多くの企業や県民の参画を図り、びわ湖マラソンやワールドマスターズゲームズなどのスポーツイベントにおけるボランティア活動で魅力を感じていただき、本県におけるスポーツボランティア文化の浸透を図る。 （スポーツ課）
11　国民スポーツ大会に向けた競技力向上対策 予　算　額　789,933,000円 決　算　額　786,955,311円	1　次世代アスリート発掘育成プロジェクト （単位：円）

区分	事業費	財源内訳			
		国支出金	地方債	その他	一般財源
予　算　額	11,548,000	－	－	8,052,000	3,496,000
決　算　額	11,545,230	－	－	8,816,000	2,729,230

・前年度決算額：11,305,569円　　・事業実施方法：委託、直営

(1) 事業実績
県内の運動能力に優れた子どもたちを発掘し、身体能力・知的能力の開発や様々な競技体験を通じて、トップアスリートを目指すジュニア選手の育成を行った。

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明
	ア　次世代アスリートの発掘（滋賀レイキッズ第12期生） ・選考会の開催　　エントリー数 276人 成績上位者　男子20人、女子20人、計40人を選考 イ　滋賀レイキッズ第12期生　認定証交付式、第11期生　修了証授与式 ウ　滋賀レイキッズの育成 ・育成プログラムの開催　第11期生21回、第12期生14回 ・競技体験プログラム追加体験会（希望者）８競技19回延べ78人参加 エ　国スポ関連イベントへの参加 ・大阪万博での国スポＰＲイベントへの中継参加 ・国スポ総合開会式で、滋賀県ゆかりのトップアスリートと一緒に走る「うみのこリレー」に参加 オ　プロジェクト実行委員会の開催　４回 (2) 施策成果 ア　実施した育成プログラムおよび競技体験をきっかけに第11期生については７人が種目転向または併行を決めた。 イ　「わたＳＨＩＧＡ輝く国スポ」において、修了生が延べ10種目で入賞するなど事業の成果が見られた。また、修了生から初めてのオリンピック出場者（スノーボードハーフパイプ）が誕生した。 (3) 今後の課題 引き続き修了生の競技活動状況の把握に努めるとともに、現レイキッズ生に対し、個別に競技接続を進めていく必要がある。また、本事業が本県の競技力向上のレガシーとなるよう、本プロジェクトの質的向上を図り、アスリートの育成プログラムとしてより合理的で効率的な事業運営を検討する必要がある。 (4) 今後の課題への対応 ア　令和８年度における対応 令和４年度より開始した、レイキッズ受験者のうち、希望者に競技団体の体験会等の案内を行う「トライキッズ」の取組を充実させるとともに、レイキッズの競技接続の機会の拡大を図る。また、本事業がさらに充実するよう、保護者、子ども、競技団体の理解を得ながら事業を展開し、成果と課題をもって取組を検証する。 イ　次年度以降の対応 競技団体と連携を密にし、トップアスリートを目指すジュニア選手の発掘・育成・強化を継続的に行うための取組、その他条件整備について検討を進める。

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明

2　競技力向上対策本部が行う競技力向上対策事業

（単位：円）

区分	事業費	財源内訳			
		国支出金	地方債	その他	一般財源
予　算　額	778,385,000	－	－	157,351,000	621,034,000
決　算　額	775,410,081	－	－	157,351,000	618,059,081

・前年度決算額：750,823,200円　　・事業実施方法：補助（補助率10/10、定額）

(1) 事業実績

滋賀県競技力向上基本計画に基づき、本県の競技力向上と安定した競技力を維持するため、滋賀県スポーツ協会をはじめとする幅広い主体の参画を得て組織する「滋賀県競技力向上対策本部」が行う各種強化事業および対策本部の運営に要する経費を負担・補助した。

(2) 施策成果

「わたＳＨＩＧＡ輝く国スポ」においては、目標としていた「天皇杯」、「皇后杯」を44年ぶりに獲得することができた。スポーツ特別指導員をはじめ選手指定強化対策事業による支援を受ける成年選手、高校生トップアスリート支援事業や強化拠点校所属の少年選手の躍進により、全種別で大きく得点をあげ、競技別男女総合成績で28競技、女子総合で23競技が入賞するなど、これまでの強化の成果を十分に発揮することができた。

「わたＳＨＩＧＡ輝く障スポ」においては、昨年の佐賀大会に比べて５倍以上の選手が出場し、それぞれの選手がベストを尽くした結果、個人競技で173個のメダルを、団体競技では身体障害者バレーボール男子が銅メダルを獲得するなど、これまでの育成・強化の取組の成果を十分に発揮できた。

(3) 今後の課題

今後は、大会を契機に高まった競技力、国スポ開催により整備された環境、スポーツへの関心をいかにして維持継続するのかが課題であり、次世代のアスリートを育成するための取組や指導者確保と併せ、引き続き本県の競技スポーツの推進に注力していく必要がある。さらに、持続的な発展のため、次世代のアスリート育成、指導者養成および確保などを担う競技団体の組織基盤強化を推進する必要がある。

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明
	(4) 今後の課題への対応 ア　令和８年度における対応 滋賀国スポ開催以降の本県の競技水準を測る指標として、「第３期滋賀県スポーツ推進計画」に記載のとおり、第80回国民スポーツ大会以降の目標として男女総合成績15位以内を目指すこととし、「競技団体・選手への支援」、「指導者の確保と環境整備」の２本柱で事業を実施する。 パラスポーツの育成・強化については、令和８年度以降の目標を、「障害のある人の「する」・「みる」・「支える」の推進」および「スポーツを通じた共生社会の実現」へ転換し、パラスポーツに関する施策全体の中で総合的に展開していく。 イ　次年度以降の対応 「わたＳＨＩＧＡ輝く国スポ・障スポ」の開催を通して培った人材や施設等の競技環境を活かし、県民が年齢や体力、意欲に応じてスポーツに親しみ、挑戦することができる機会の創出とそれを支える基盤の整備に取り組むことで、同大会のレガシーの継承・発展につなげる。 （スポーツ課）
12　第79回国民スポーツ大会および第24回全国障害者スポーツ大会の開催 予　算　額　　9,444,106,000円 決　算　額　　9,413,408,983円	1　国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会開催事業 （単位：円） ・前年度決算額：2,224,833,886円　　・事業実施方法：補助（補助率 定額） (1) 事業実績 県や市町をはじめとする県内の主要な機関・団体によって構成される「わたＳＨＩＧＡ輝く国スポ・障スポ実行委員会」に対して、運営等に必要な負担金を拠出した。 また、大会の円滑な運営や本県におけるスポーツ環境整備に資するため、市町が行う競技会の開催等に要する経費や、競技施設の整備事業に要する経費に対して補助金等を交付した。 ア　総会（実行委員会第４回、第５回） 事業報告、収支決算報告、事業計画、収支予算等の決定

区分	事業費	財源内訳			
		国支出金（定額）	地方債	その他	一般財源
予　算　額	9,444,106,000	532,000,000	－	8,737,962,000	174,144,000
決　算　額	9,413,408,983	532,000,000	－	8,737,066,650	144,342,333

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明
	イ　常任委員会（実行委員会第７回） 総監督会議等の開催、宿泊事務実施要領の一部改正等の決定 ウ　専門委員会（主な審議内容等） (ｱ) 総務企画専門委員会 総監督会議等の開催（案）の決定 (ｲ) 宿泊専門委員会 宿泊事務実施要領の一部改正（案）の決定 エ　競技会運営委員会（県外および県市町共催等により実施の５競技） 競技別リハーサル大会開催結果報告、各競技会開催方針（案）の決定 オ　市町競技施設整備費補助金 市町が行う国スポ・障スポの競技会場となる競技施設の整備事業に対する支援制度に基づき、13件、852,383,000円を交付した。 カ　わたＳＨＩＧＡ輝く国スポ競技別リハーサル大会運営費補助金 市町等が開催する競技別リハーサル大会の運営事業に対する支援制度に基づき、３件52,156,000円を交付した。 キ　わたＳＨＩＧＡ輝く国スポ会場地市町運営交付金 市町等が開催する競技会の運営事業等に対する支援制度に基づき、19件2,478,533,000円を交付した。 (2) 施策成果 実行委員会の各専門委員会・特別委員会における所期の活動を行い、着実な開催準備を進め、安全・安心な大会運営を行うことができた。 (3) 今後の課題 環境配慮や共生社会の実現、おもてなしによる滋賀の魅力発信、子ども・若者・女性の活躍など、両大会での取組をレガシーとして大会終了後も継承・発展させていく必要がある。 (4) 今後の課題への対応 ア　令和８年度における対応 スポーツの力で「かわる」「つながる」「ひろがる」ＳＨＩＧＡを目指し、シンボルスポーツの創出・定着といったスポーツ振興にとどまらず、共生社会実現や環境配慮といった全庁的な取組を実施していく。 イ　次年度以降の対応 引き続き、両大会のレガシーの継承・発展に取り組んでいく。 （スポーツ課）

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明
13　スポーツ施設の整備 予　算　額　　35,951,000円 決　算　額　　32,513,430円	1　彦根総合スポーツ公園整備事業

（単位：円）

区分	事業費	財源内訳			
		国支出金	地方債	その他	一般財源
予　算　額	35,951,000	－	6,000,000	20,000,000	9,951,000
決　算　額	32,513,430	－	5,300,000	20,000,000	7,213,430

・前年度決算額：69,310円　　・事業実施方法：委託

(1) 事業実績

彦根総合スポーツ公園（彦根市松原町地先）において、庭球場整備に向けた業務を実施した。

ア　彦根総合スポーツ公園庭球場整備にかかる設計条件整理業務

イ　彦根総合スポーツ公園庭球場用地における測量業務

ウ　彦根総合スポーツ公園庭球場用地における補償調査業務

(2) 施策成果

設計条件の整理、取得予定用地の測量および補償調査を実施するなど、庭球場の供用開始に向けた業務を着実に進めている。

(3) 今後の課題

庭球場に加えてスポーツ施設以外の整備についても、引き続き彦根市、地元等関係者と連絡調整を行いながら着実な整備を進めるとともに、更なる施設の有効活用を行う必要がある。

(4) 今後の課題への対応

ア　令和８年度における対応

国スポ・障スポ大会後の活用に向け、庭球場をはじめとした公園施設の整備を進める。

イ　次年度以降の対応

公園整備を進めるとともに、引き続き公園の有効活用について検討する

（スポーツ課）

Ⅱ　経　　済

未来を拓く　新たな価値を生み出す産業

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明
1　新たな時代に対応する滋賀ならではのツーリズム「シガリズム」の推進 予　算　額　240,458,000円 決　算　額　239,328,326円	1　観光ＤＭＰ構築推進事業

（単位：円）

区分	事業費	財源内訳			
		国支出金(1/2)	地方債	その他	一般財源
予　算　額	11,216,000	5,608,000	－	－	5,608,000
決　算　額	10,749,000	5,374,000	－	－	5,375,000

・前年度決算額：－円　　・事業実施方法：補助（補助率 定額）

(1) 事業実績

観光入込客数等の観光関連データを一元的に集約し、分析、可視化できる観光ＤＭＰ（データマネジメントプラットフォーム）の構築等について、公益社団法人びわこビジターズビューローに対して補助を行った。

(2) 施策成果

観光データの一元的な集約と可視化基盤の構築により、本県観光の特徴を把握できる仕組みを整備することができた。また、県内市町等を対象としたデータ活用の説明会には42名が参加し、観光関係者のデータ活用に関する理解促進および連携体制を構築することができた。

(3) 今後の課題

現状の観光ＤＭＰでは観光入込客数や宿泊客数等のデータを搭載しているが、搭載データの拡充や、データを持続的に収集・蓄積するための仕組みづくりが必要。

(4) 今後の課題への対応

ア　令和８年度における対応

県内観光地における来訪者の属性や消費行動等に関するデータをリアルタイムで収集、公開するために、二次元コードを活用したアンケートシステムを新たに構築し、持続的なデータ収集・蓄積の仕組みを整備する。

イ　次年度以降の対応

搭載データの充実とともに、観光ＤＭＰの市町や観光事業者等の活用促進をはかることでＥＢＰＭによる観光地経営につなげる。

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明

2　観光産業活性化事業

（単位：円）

区分	事業費	財源内訳			
		国支出金(1/2)	地方債	その他	一般財源
予　算　額	164,516,000	70,962,000	－	4,460,000	89,094,000
決　算　額	163,853,326	70,962,000	－	5,900,977	86,990,349

・前年度決算額：－円　　・事業実施方法：補助（補助率 定額）、直営

(1) 事業実績

ア　国内観光活性化事業

大阪・関西万博や国スポ・障スポ等の大型イベントを契機として、観光キャンペーンを実施し、滋賀ならではの観光コンテンツを創出したほか、多様な媒体や各種イベント等を活用して、本県観光の魅力を発信した。

イ　インバウンド誘客力向上事業

外国人観光客向けに旅行商品の造成促進やコンテンツ創出、本県観光の魅力発信を行ったほか、海外の旅行会社やメディア等を招請する本県での視察ツアー（ＦＡＭトリップ）を実施し、外国人観光客のさらなる誘客促進に取り組んだ。

(2) 施策成果

ア　国内観光活性化事業

滋賀を深く体験・体感できる観光コンテンツである「シガリズム体験」を158件創出するとともに、観光キャンペーンの中で、多様な媒体や各種イベント等を活用した情報発信を行ったことで、本県観光の魅力を高めるとともに、全国へプロモーションすることができた。

令和９年度（2027年度）の目標とする指標

	令３（策定時）	令７	目標値	達成率
延べ観光入込客数	37,007,374人	52,327,517人（速報値）	60,000,000人	87.2%
観光消費額	1,173億円	2,436億円（速報値）	2,514億円	96.9%

	令７	目標値	達成率
新たに創出するシガリズムコンテンツ数（令和７年度から令和９年度の累計）	158件	260件	60.8%

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明
	イ　インバウンド誘客力向上事業 台湾に加え、米国に設置した本県の誘客活動を行う事業者によるセールス活動（25 社訪問）や、中国での大型観光物産展への出展、ほかの地域においてもメディア等を対象としたＦＡＭトリップ（21 件、110 人）により本県の魅力を広く発信するとともに、受入環境整備事業（申請数 16 件、補助額 2,829 千円）により県内のインバウンド受入環境整備を促進した。また、「そこ滋賀事業」により、京都駅からの誘客促進を図った。 「シガリズム観光振興ビジョン第２期アクションプラン」における令和９年度（2027 年度）の目標値 外国人延べ観光入込客数　令６　51 万人　令７　61 万人（速報値）　目標値　74 万人　達成率　82.4％ (3) 今後の課題 ア　国内観光活性化事業 本県への観光客の約９割が観光消費単価の低い日帰り観光であるため、宿泊・滞在型観光を推進し、滋賀の魅力を深く体験・体感できる観光を充実させることにより、滞在期間を延伸させ観光消費額の回復を図る必要がある。 イ　インバウンド誘客力向上事業 令和７年の外国人日帰り客数（速報値）については過去最多となったものの、外国人宿泊客数（速報値）は、コロナ禍前まで回復しておらず、本県の認知度の向上、および宿泊客の増加、観光消費額の拡大を図るため、外国人観光客のさらなる誘客促進が必要である。 (4) 今後の課題への対応 ア　令和８年度における対応 (ｱ) 国内観光活性化事業 安土城築城 450 年や大河ドラマ放送を契機とした観光キャンペーンを実施し、デスティネーションキャンペーンのプレＤＣとも連携を図りながら、旅行者の価値観や意識の変容を促す観光コンテンツの創出等により、新たな観光を推進する。 (ｲ) インバウンド誘客力向上事業 全国的な訪日旅行需要の高まりを契機として、海外からの誘客促進に向けて、重点市場である東アジアや、開拓市場である欧米豪に対して、各市場の動向やニーズに応じたプロモーションや商談会、セールス活動等を展開するとともに、県内事業者へのインバウンド対応支援等により誘客を図る。

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明

イ　次年度以降の対応

(ｱ) 国内観光活性化事業

デスティネーションキャンペーンに向け、引き続き、国内旅行者向けに、旅行者の価値観や意識の変容を促す新たな観光のコンテンツ創出や販売促進のためのプロモーションに取り組むとともに、地域の観光まちづくりを進め、宿泊客や高付加価値な観光コンテンツを求める旅行者の誘客促進を行うことで、観光産業を活性化させる。

(ｲ) インバウンド誘客力向上事業

本県のインバウンド誘客においては、一過性ではなく、継続的な取組として行う必要があるため、現地での商談会やセールス活動、受入環境整備への事業を引き続き実施していく。

3　大河ドラマを活用した観光誘客・地域活性化事業

（単位：円）

区分	事業費	財源内訳			
		国支出金	地方債	その他	一般財源
予　算　額	40,000,000	－	－	－	40,000,000
決　算　額	40,000,000	－	－	－	40,000,000

・前年度決算額：－円　　・事業実施方法：補助（補助率 定額）

(1) 事業実績

令和８年の大河ドラマ放送を契機とし、関係自治体や放送事業者等と連携を図りながら、各種プロモーションやイベントの開催等に取り組んだ。

(2) 施策成果

「戦国」をテーマに観光キャンペーンを展開し、関係者と連携した情報発信や特別企画等を通じて、大河ドラマ放送による誘客・プロモーション効果を広く県域全体へ波及させることができた。

(3) 今後の課題

令和８年度も大河ドラマの放送に合わせて、関係者との連携をさらに強化してプロモーションや各種施策を展開し、引き続きその効果を県域全体へ広く波及させていく必要がある。

(4) 今後の課題への対応

ア　令和８年度における対応

観光キャンペーンを継続し、関係自治体等と連携したプロモーションの展開や、放送事業者等と連携したイベントの開催等に取り組んでいく。

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明

イ　次年度以降の対応

大河ドラマの放送終了後も、関係者との連携の成果を活かし、引き続き本県の「戦国」の魅力発信に努める。

4　滋賀デスティネーションキャンペーン推進事業

（単位：円）

区分	事業費	財源内訳			
		国支出金	地方債	その他	一般財源
予　算　額	24,726,000	－	－	－	24,726,000
決　算　額	24,726,000	－	－	－	24,726,000

・前年度決算額：－円　　・事業実施方法：補助（補助率 定額）

(1) 事業実績

滋賀県シガリズム・デスティネーションキャンペーン推進協議会（ＤＣ協議会）および下部組織の「コンテンツ部会」「誘客促進部会」「広報・おもてなし部会」を立ち上げ、各々会議を２回開催したほか、滋賀デスティネーションキャンペーン（滋賀ＤＣ）のコンセプトを基にキャッチフレーズの公募により決定し、キャッチフレーズを表すロゴマークを作成した。

また、全国から旅行会社等を滋賀に招聘し観光ＰＲを行う全国宣伝販売促進会議・エクスカーション計画の作成や、旅行会社に配布する観光素材集の情報整理を行うとともに、機運醸成のためのサポーター制度を構築した。

(2) 施策効果

各分野の主体との連携体制が確立され、滋賀ＤＣに向けた方向性の決定や情報共有ができたほか、令和８年度当初から全国宣伝販売促進会議に向けた準備や、コンテンツ創出事業・サポーター制度の募集を行うための体制を整えることができた。

また、キャッチフレーズを公募したところ１万件を超える応募があり、滋賀ＤＣを広く広報することできた。

(3) 今後の課題

滋賀ＤＣに向けた取組を最大化するため、市町等関係団体の意見を収集しながら市町等と連携を強化し、滋賀ＤＣに向けた取組を加速して進めていく必要がある。

(4) 課題への対応

ア　令和８年度における対応

滋賀ＤＣのプレキャンペーンに向けた内容や情報を市町・関係団体等と共有し、全国宣伝販売促進会議・エクスカーションの具体的な対応やサポーター制度などの受入体制の整備、観光コンテンツの開発や磨き上げ等について、調整を行い、具体的な取組を進める。

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明
	イ　次年度以降の対応 　引き続き、滋賀ＤＣに向けて、旅行商品の造成や県内全域への周遊の促進、県内の機運醸成等の取組を進めるとともに、市町や関係団体とさらなる連携を行うことにより、県全体で滋賀観光の魅力向上や情報発信を図る。 （観光政策局）
2　ビワイチの推進 予　算　額　53,347,000円 決　算　額　52,628,864円	1　ビワイチ観光推進事業 （単位：円） 区分 / 事業費 / 財源内訳（国支出金(1/2) / 地方債 / その他 / 一般財源） 予　算　額　53,347,000　21,436,000　－　2,311,000　29,600,000 決　算　額　52,628,864　21,268,675　－　2,310,844　29,049,345 ・前年度決算額：27,203,891 円　・事業実施方法：補助（補助率 定額）、直営 (1) 事業実績 　ビワイチ推進条例に基づき、多様な主体との連携を通じた「ビワイチの日、ビワイチ週間」（11/3～11/9）のイベントや「ビワイチの子」子ども向けサイクリングガイドツアー、アプリを活用したサイクリングマイレージやデジタルスタンプラリーイベントの実施、国内外における自転車展示イベントへの出展等により、ビワイチの魅力を国内外に発信し、誘客の促進を図った。 (2) 施策成果 　民間事業者や県内市町と連携して実施した「ビワイチの日、ビワイチ週間」や、アプリを活用したサイクリングマイレージ等のイベント実施、国内外のイベントへの出展により、令和７年の琵琶湖一周サイクリング体験者数（推計値）は過去三番目の11万5,000人を記録し、これによる経済波及効果（試算値）は18億9千万円となった。 令和９年度（2027年度）の目標とする指標 琵琶湖一周サイクリング体験者数　令７　目標値　達成率 11.5万人　14.6万人　78.8% (3) 今後の課題 　ビワイチ体験者において、女性や初心者層など誰もが気軽にサイクリングで県内周遊を楽しめるよう、レンタサイクルの利便性向上に向けた取組や宿泊施設などサイクリストの受入施設の情報発信等により、幅広いビワイチ体験者の誘引につなげる必要がある。

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明
	(4) 今後の課題への対応 ア　令和８年度における対応 女性や初心者層など、だれでも、いつでも、どこでも楽しめるビワイチを目指すため、レンタサイクルの更なる利便性向上のための途中返却拠点の拡大や、子どものビワイチ体験の促進、多様な主体と連携した「ビワイチの日、ビワイチ週間」イベント等を行う。また、改正道路交通法の施行により自転車への関心が高まる中、安心安全にビワイチを楽しんでもらえるよう引き続き県警と連携した情報発信に努める。 イ　次年度以降の対応 ビワイチに係るコンテンツの充実、ウォーキングや様々な交通手段との組み合わせによる新たな周遊スタイルの創出、国内外における更なる魅力発信の継続により、より多くのサイクリストの誘客につなげていくほか、県警と連携して、ビワイチのマナーやルールについて引き続き安全啓発・指導を行うなど、ハード・ソフトの両面から誰もがビワイチを楽しめる環境づくりを進める。 （観光政策局）
３　首都圏およびＷＥＢメディアなどでの情報発信の充実 予　　算　　額　　204,914,000円 決　　算　　額　　204,190,943円	１　ここ滋賀推進事業 （単位：円） 区分 / 事業費 / 財源内訳（国支出金(1/2) / 地方債 / その他 / 一般財源） 予　算　額 / 204,914,000 / 35,585,000 / － / 9,181,000 / 160,148,000 決　算　額 / 204,190,943 / 35,426,974 / － / 9,405,275 / 159,358,694 ・前年度決算額：197,018,869 円　　・事業実施方法：委託、直営 (1) 事業実績 ア　情報発信拠点運営事業 滋賀の魅力を実際に見て、触れて、食べることができる体験型の発信を行うとともに、滋賀への誘引の役割を担う情報発信拠点「ここ滋賀」の運営・管理を行った。 イ　滋賀の魅力体感創造事業 情報発信拠点「ここ滋賀」を通して滋賀の魅力を体感してもらい、滋賀へ誘引するため、ＰＲイベントの開催、観光コンシェルジュの設置、メディア活用による発信、首都圏における販路開拓の推進等を行った。

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明
	(2) 施策成果 滋賀の魅力が再認識され、「買う・食べる・訪れる・住む」といった各場面で滋賀が選択されるよう、人・モノ・情報が集中する東京で滋賀の魅力を体感する企画催事の開催やメディアの活用等により、「滋賀の魅力発信」と「滋賀への誘引」につなげた。 ・来館者数　459,284 人　（目標値　465,000 人） ・売上　232,555 千円（目標値　240,000 千円） ・滋賀県への波及効果　1,406,453 千円（目標値 1,102,000 千円） 令和８年度（2026 年度）の目標とする指標 「滋賀に観光に行ってみたい」と答えた来館者の割合　令５　令６　令７　目標値 目標　93%以上　93%以上　95%以上　95%以上 実績　95%　94.2%　95.3%　－ (3) 今後の課題 来館者や事業者を対象にしたアンケートにおいて、来館者の約９割が「ここ滋賀」で滋賀の魅力を感じ、また、事業者の約７割が「ここ滋賀」との取引全般を一定評価していること等から、「ここ滋賀」の大きな目標である「滋賀の魅力発信」と「滋賀への誘引に向けた取組」が一定の成果を上げている。一方で、県内事業者からは、首都圏でのＰＲや販路拡大への期待の声が多数あるものの、「期待通りの売上があがらなかった」、「フィードバック機能を強化して欲しい」という意見があった。 (4) 今後の課題への対応 ア　令和８年度における対応 拠点を活用した滋賀を体感できる取組などを通して、さらに魅力発信を強化し、来館者数および売上を確保するとともに、来館者の滋賀への愛着を高め、県内事業者の満足度向上を図る。特にここ滋賀旅行割の実施やタクシークーポンの発行等により滋賀への誘客を促進するとともに、県内事業者に対する商品情報のフィードバックやマーケット情報の提供、商談会を開催し、さらに販路開拓を進めるなど事業者連携を強化する。加えて、東京本部と連携しながら、拠点を活用したゆかりのある人の掘り起こしやファンづくりに取り組み、ネットワークの構築およびリスト化を図る。

事　　項　　名	成　　果　　の　　説　　明
	イ　次年度以降の対応 　旅行事業者との連携による誘客機能の強化や、新たな販路開拓の仕組みづくり、テストマーケティング機能の強化、高品質県産品の販路開拓を通じた発信強化、滋賀のファンづくりとネットワークの拡大、コンシェルジュによる案内・相談体制の強化、拠点を活用した関係人口の創出、企画催事における多様な主体との連携、首都圏における目的に応じた情報発信など機能の充実強化を店舗運営事業者と連携して取り組み、更なる滋賀の魅力発信を通じ、来館者の滋賀への愛着を高め、県内事業者の満足度向上を図っていく。 （観光政策局）